

2010年度 自己評価書

学校法人藤学園 小樽藤幼稚園

1 本年度の重点目標

キリスト教の人間観に基づき、一人一人の子どもは、かけがえのない神の似姿であることから人格形成の基礎作りをすることに重点をおいている。

2 本年度の経営方針

- 教育基本法、幼稚園教育要領の理解をさらに深める。
- 園の教育方針を保護者によく理解してもらえる話合いの場を密にしたい。

3 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

- A 十分達成されている。
- B 達成されている。
- C 取り組まれているが、成果が十分でない。
- D 取り組むが不十分である。

4 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
教育目標	1 園の創立理念・建学の精神にあるキリスト教理念を理解している。	A	研修を通し、理解ができた
	2 教育目標と教育方針を理解している。	A	話合い、勉強会の中で理解を深めた
	3 教育方針について園長と共に定期的に話し合い、理解を深めている。	A	2週に1回の聖書の話合で、キリスト教の意図するところが少し理解出来た
教育課程	4 幼稚園教育要領を理解している。	A	全年令での年間カリキュラムを中心に変更を行った
	5 教育目標・教育方針が教育課程に反映されている。	A	教育目標方針を元に、カリキュラムや週の目標が設定されている
	6 職員全員の協力により教育課程を反省・評価し、必要に応じて改善している。	A	話合いの中で改善点を反省し変更している
指導計画	7 園の教育課程の具体的実施計画として、長期・短期の指導計画の関連性をふまえて作成している。	A	全職員の共通理解として、年間計画や各クラスの週案等作成している
	8 幼児の興味・関心、生活の流れ等、実態に応じて変更できるような計画になっている。	A	各クラスとも柔軟に対応できるよう計画している
	9 日々の保育の記録をとり、自ら検討すると共に教員間で話し合い、次の計画にいかしている。	A	日々のクラス日誌、日案又職員共通の日誌を通して次の計画につなげている
教育環境	10 幼児にとってふさわしく安定した教育ができる環境になっている。	A	日々、一人一人の子どもにあった環境作りをしている
	11 施設・設備を整え、幼児の様々な活動がおこなえるようにしている。	A	各学期ごと教具・遊具を取りかえ、子供の発達にあった環境を整えている
	12 施設・設備の安全を確保する努力をしている。	A	大型遊具など安全性をふまえ、職員の監督責任が明確にされている
	13 施設・設備の改善や計画について積極的に意見を述べている。	A	改善点などを提言した

教育内容	14	神の子として世界の平和を大切にすることを育てている。	A	週に一度、又全体の集会の中で、年令に応じて世界の平和、命の大切さに目を向け祈っている
	15	生活や遊びの中で、頑張ったり、我慢したり等の豊かな心の体験が得られるようにしている。	A	心の強さが増す上で大切な時期なので、一人一人の心の成長を考慮しながら指導している
	16	生活や遊びの中でルールを守り、楽しく活動できるようにしている。	A	ルールを守ることで楽しさ喜びが増すことを伝えたい
	17	身近な事象（自然的事象・社会的事象）や動物との触れ合い、親しむとともに、生命の大切さや畏敬の念を感じとれるように努めている。	A	園内で飼育している動物との触れあいや、種 _く 植 _こ 収穫、園庭の草花を通して生命の大切さ、偉大さを感じられるように
教師の役割	18	幼児一人ひとりの心のより所としての役割を果たしている。	A	一人一人の心の動きに寄りそえるように努めた
	19	保護者に信頼されるように努めている。	A	個人面談を中心に、3時以降、電話での相談にも応じている
	20	教師であることに誇りを持ち、生きがいを感じている。	A	園外での行動も常に意識し、誇りと生きがいを持っている
資質の向上	21	キリストの教えを学びそれを幼児に伝える指導法を研究している。	A	その月のテーマとなる聖書の箇所を読み、話し合いを通して理解を深めた
	22	教師の専門性を高めるため自己研修等に意欲的に取り組んでいる。	A	各方面で開かれている研修会に参加している
	23	保護者の子育てへの不安、育児へのニーズを理解しようと努めている。	A	毎月の父母の会の場が意見交換となって理解を深めている
地域連携	24	カトリック教会との連携を計りキリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にしている	A	お泊り保育、卒園感謝の祈等、教会を訪問し祈っている
	25	家庭や地域との連携を十分に図りながら保育を展開するようにしている。	A	大人の知的障害、又老人施設を訪問し、異年齢の方々との交わりを体験している
	26	地域に伝えられている文化や伝統に触れる機会を大切にしている。	A	地域に伝えられているガラス工芸の体験、コップ作りを指導してもらい体験している
	27	他の教育機関等と連携や交流をし保育にいかしている。	A	市の発達支援センターや民間の児童デイサービスセンターと連携をはかっている
組織運営	28	園・学園の組織について知り、自分もその組織の一員としての自覚をもって行動している。	A	年に一度の学園の研修会が役立っている
	29	職員会議等の運営・役割に応じて積極的に参加している。	A	皆で協力し、円滑に行われるよう努力している
	30	教職員間の連絡・調整が適切におこなわれている。	A	毎日朝礼、終礼時に適切に行われている
保護者との意見反映	31	保護者からの意見を聞き、それを園長に伝え、適切に反映している。	A	保護者と教師間の連絡事項は全て報告されている
	32	幼児や保護者の個人情報の取り扱いについて、適切な配慮がされている。	A	各種記名されている書類は、園外持出し禁止となっている
	33	事故、問題等が起きた場合の園長への報告・保護者への説明、対応を適切におこなっている。	A	小さな怪我をはじめ必ず報告し、保護者への説明内容、結果も報告されている

5 総合的な評価結果

総合評価	理 由
A	教職員は一致協力して目標に向けて努力をしているが、これからもキリスト教の人間観を通して人格の向上と共に保育者としての研鑽を積んでいきたい。